



遊歩道
一般道



7~9月
ヤマトタマムシ

羽衣池

倉吉博物館
歴史民俗資料館

テニスコート

木の幹

ウメノキゴケ類

8~11月



イヌビワ

飛龍閣

椿の平

鎮霊神社

陸上競技場

相撲場

7~9月



アゲハチョウの吸水

7月



ベッコウバチ

勝入寺

動物広場

7~9月 夜



カラスウリ

大江神社

8~9月



ウスバカゲロウ

いろいろな場所で観察できる

6~9月



ヒグラシ

雨の後



セトウチマイマイ

7~9月 夜



キツネノカミソリ

8~10月



クサグモ

打吹山城址

8~9月



ウスバカゲロウ

8~11月



イヌビワ

7~9月 夜



イグチの仲間

長谷の八十八か所



ベッコウバチ

8~10月



クサグモ

長谷の展望台

7~9月



イグチの仲間

9~11月



ゴンズイ

峠の展望台

余戸谷町

長谷寺

みどり町

このマップの使い方

- 0月 ← 観察に適した月
- ← 周辺で観察できる生きもの
- 名前

観察できた生きものを記録して、
自分だけのマップをつくってみましょう!!

※気候や環境の変化によって、
記載した場所・時期に観察できない場合があります。

※打吹山の大切な自然を守るために、生きものの採集はひかえましょう。



イヌビワの雌株の果囊



イヌビワの雄株の果囊

イヌビワ

イチジクの仲間。イヌビワコバチによって、雄株の花囊の花粉が雌株の花囊に運ばれて受粉する。雌株の花囊が熟した果囊は非常に甘く、美味しい。



はじける前の果実 はじけた後

ゴンズイ

明るい場所を好むため、遊歩道によく生えている。9~11月頃、赤い果実がはじけて黒い種子が見えるので、目に留まりやすくなる。



↑花

←葉

キツネノカミソリ

ヒガンバナの仲間。盆の頃に林床でユリ型の花が見られる。葉は夏には枯れてしまうため、花と葉を同時に見ることはできない。



ウメノキゴケ マツゲゴケ

ウメノキゴケ類

ウメノキゴケ類はコケの仲間ではなく、菌類と藻類が共生している地衣類の仲間。打吹山の木の幹には、ウメノキゴケ類がよく付着している。

探してみよう~時期通りに現れるもの~

サクラの開花やセミの出現などの生物現象から季節の進み具合の傾向をみる指標を生物季節といいます。年毎の記録を残していくと、地球温暖化などの傾向を知ることにもなります。生き物の移り変わりで季節を感じてみてはいかがでしょうか？



ヒグラシ

林内に生息するセミ。打吹山では、6月下旬頃からカナカナカナ…と鳴き始める。日中は鳴かず、日暮れ、早朝、夕立後など薄暗くなると鳴く。



ベッコウバチ

7月頃に、多く雄が飛び回って雌を待つ交尾集団が見られる。雌が止まると、雄はその上に乗って交尾しようとする。刺されることはない。



アカヤマドリ



ベニイグチ

イグチ

イグチの仲間は夏が盛期のキノコ。大型の物が多く、遊歩道を歩いているとよく目立つ。傘の下側がヒダではなく、スポンジ状(管孔)になっているので、わかりやすい仲間。食菌と毒菌がある。



打吹山



ウォッチングガイド



7・8・9月

倉吉博物館では、打吹山の生きものの見どころを紹介する「打吹山ウォッチングガイド」を毎月発行しています。このマップはこれまでのガイドの中から3か月ごとに見どころを取り上げたものです。

詳細な解説は「打吹山ウォッチングガイド」の製本版 P.00 か A4版 No.△△ をご覧ください。

見開きに打吹山の地図を掲載しています。



カラスウリ

7~8月の夜間に大きなレースをまとった花が開く。花粉の運び手はガで、運が良いと大きなスズメガが吸蜜に訪れる様子が観察できる。



ミヤマカラスアゲハの吸水

アゲハチョウの吸水

暑い日には、チョウが相撲場の上などの水たまりに集まり、吸水する姿がよく見られる。ミヤマカラスアゲハやモンキアゲハなどが集まる。



ヤマトタムシ

成虫はエノキの葉を食べる。エノキの大木を見上げると、勢いよく飛び回っていることがある。捕獲は難しいが、死体が落ちていたことは多い。



ウスバカゲロウ

遊歩道の薄暗い場所で、ヒラヒラと飛ぶ姿を見かける。幼虫はアリジゴクで、7月頃に蛹になり、1か月くらいで羽化し、成虫になる。



クサグモ

水平に糸を張ってマットのようなクモの巣(棚網)を低木に作る。棚の径が30cmくらいだとクサグモ、15cmくらいだとコクサグモの棚網。



セトウチマイマイ

雨の上がった直後が、見つけやすい。人工的なものが多い場所で一番目立つのはこの種類。殻の模様は遺伝によるので、打吹山でも模様が様々。